



増刊号

2021.10.20 発行

玉川つばめ通信

take free 無料

題字・イラスト/金子伸子 デザイン/葉田いづみ 取材・文/玉川大学教育学部中西ゼミ 編集・発行/宇野津暢子 協賛/玉川大学印刷/レトロ印刷jam
【お問い合わせ先】nu821@zj9.so-net.ne.jp Tel.090-3473-3872
*玉川つばめ通信増刊号は3000部印刷し、配布しています。

ごあいさつ

玉川大学の学生が玉川学園の魅力に迫った増刊号です！

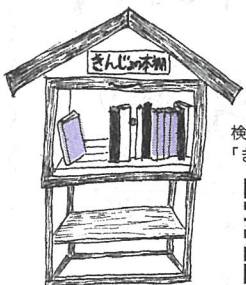
昨年に引き続き、中西ゼミの二期生で玉川つばめ通信の増刊号を出すことになりました。発行人である宇野津さんの協力のもと、7人の個性豊かなメンバーが取材に関わりました。コロナ禍によってなかなか全員で行動することができず、試行錯誤の日々が続きましたが、工夫しながら玉川学園の魅力について取材をしました。学生ならではの気づきや考えを楽しみつつ、ご覧ください。

玉川大学教育学部中西ゼミ

気になる場所訪問

玉川学園周辺で見つけた！

増刊号 きんじょの本棚 その後



検索は「きんじょの本棚」で！



自宅やお店の前などに置かれた本棚から自由本の貸し借りができる

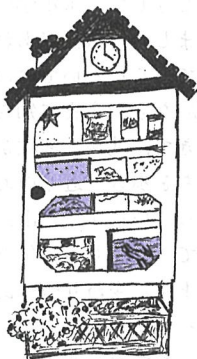
「きんじょの本棚」。民間図書館で働くきんじょようみゆきさんが3年前に始めました。きんじょさんからスタートセットが届いたら開店可能。どこで借りてどこで返してもOK。玉川つばめ通信26号

(2020年11月20日発行)で紹介されたときは12店でしたが、2021年10月1日現在は64店に急拡大。「コロナ下でも気軽に本が手に取れる場所を」という思いが、共感を呼んでいます。ゼミ生でいくつか回りました。

こぼれ話

話を聞いた人▼渡辺さんファミリー
青い屋根が目印。玉川学園前駅から一番近い「本棚」で運営はご家族がしています。
〇 屋根がレゴブロックのようです。本棚のクオリティーの高さに驚きました。

屋根はペットボトルのキャップに色を塗りました。高校生の兄がCGで設計、小学生の弟が木材で形にしました。



〇 多くの工夫がありますね

屋根の中のニワトリのオブジェには庭で飼っているニワトリが産んだ卵を殻を使い、小さな絵本はグリコのおまけです。小さな子でも見やすいように、子ども向けの絵本は下段に。暗くなるとソーラーパネルで灯りがつきます。通りがかりの人にも便利なように時計も置きました。

〇 始めたきっかけは？

子どもたちがほつとできる居場所や、そのきっかけをつくりたいと思う出来事があったんです。私自身、読書で救われた経験もありました。

〇 なぜ「つばさ」なんです？

自由に開放的で、ひらがな3文字だと小さな子でもわかりやすい。「知の翼」という学習教材を開発したこともあり、教材に込めた「子どもたちには心につばさを持つて自分らしく羽ばたいてほしい」という願いとも重ねています。

〇 開店後の反響は？

本を見ている姿を見て話しかけ、本の感想をもらうなど、コミュニケーションが増えました。ほかの店ともつながり、世界が広がった感じがします。

にちようめ ことり店

話を聞いた人▼フリーキさん
2丁目の玉川中央幼稚園そば。ことりの森広場の近くです。

〇 店の名前の由来を教えてください。
広場や保育園の名前から？

メジロ、シジュウカラ、ムクドリなど、小鳥がうちにたくさん来るんです。小鳥たちが「落とし物」をして、知らない花が咲くこともある。これは「きんじょの本棚」に近いかなと思っただけです。

〇 開店のきっかけは？

コロナ禍で図書館が閉館して、本を手に入る機会が減ったのが残念だったからです。ボランティアで図書館に関わってい

て、司書の資格も持っています。玉川つばめ通信のファンで、自宅の蔵書をそのまま出せば図書館になると考えました。ジャンルが偏らないように選んでいます。ジャンルの本がたくさんありますね。

〇 文学の本がたくさんありますね

玉川学園の方はお好きなようですね。新しい本との出会い以外にも、地域の方との新たなつながりができました。本だけでなく、お菓子や感想を書いた手紙をいただくこともあります。とても温かい気持ちだなと思います。

〇 本がフィルムで保護されていますね

表紙が破れたりしたら利用者が気まずくて返しづらいかもしいれないので、かけています。

〇 ほかにも工夫が？
雨の日は本が置けないので、代わりにうちに咲いたバラを置いたり、立ち止まって本を選ぶ人のために蚊取り線香を焚いたりしています。

〇 ひるずかぼう店・岡さん

玉川つばめ通信発行人の宇野津さんとのつながりで始めました。週3回、店頭で野菜も売っているため主婦層のお客さんが多く、その方たちが手に取って読んでくれたり、本を持ってきてくれたりしています。



〇 カフェラジック店・鈴木さん

近所のお店が「本棚」を始めて、その店主さんに勧められました。店の前で立ち止まる人が増え、本をきっかけにお店の中まで入ってきてくれる人もいました。

〇 みるく店・石井さん

元々ラジックの鈴木さんと交流があり、鈴木さんが始めたと聞いたのでうちも始めました。以前から店内にパンに関連する本や雑誌を置いたコーナーがあったのですが、外に「本棚」を置いたことで、通りがかりの人にも気軽に手にとってもらえるようになりました。

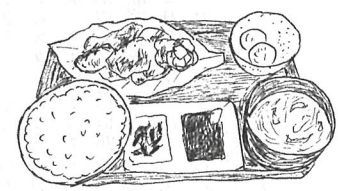


行ってみて!

玉川大学の近くで 突撃取材!

やってみて!

『牛たん 長谷川』

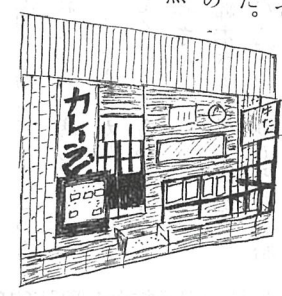


牛たん定食は塩焼き、みそ焼き各1500円。
牛たんカレーうどんはサラダつきで1000円
玉川学園1-22-16 ☎042-850-9550
休み/月 営業/11時半-15時 18時-22時

十数人でい
つばいになる
小さなお店で
すが、レトロ
な店構えが気
になっていま
した。ご主人
の長谷川米男
さんは、中華
の巨匠、陳健民の四川料理店で修業、その後、
出身地の新潟や横浜のホテル内の中華料理店

で働き、さらに六本木の高級牛たん店で10年働いたあと、5年前に玉川学園に店を開きました。六本木では店に泊まり込むほどの忙しさだったので、自宅近くに自分の店を出したいと考えたそうです。アース製薬やナシヨナルの古い看板は「懐かしさを感じるように」と知り合いの木工さんと選びました。
最初は夜のみ3000円と5000円のコースで、牛たん焼き、蒸し、牛たんのお茶漬け、牛たんの刺身などを提供していましたが、まちの雰囲気や近所の人からのアドバイスでランチを始め、低単価で提供できる牛たんのしぐれ煮入りカレーうどんも始めました。
牛たんは富士山の溶岩を使って焼いていて、遠赤外線効果で肉が柔らかく、おいしくなるそうです。塩の付け方は独特で、木の木目を思い、塩を伸ばすことで均一に塩を牛たんにつけることができるかと。

こじんまりした店にしたのは「お客さんの表情を見ながら牛たんを焼きたい。お客さんが帰るときに『ごちそうさま』と心から思えるようなお店にしたい」という思いから。ただ、コロナ禍で牛たんの仕入れ値が高騰していることが悩みどころです。夜の来店が減り、お酒の提供ができなくなったのもつらいそう。でも「この場所で長くやっていきたい」とのこと。玉川大学の学生について「礼儀正しい印象がある」と聞いてうれしくなりました。サービスマンで牛たんの厚切りとしぐれ煮までいただき、プライベートでもお店に行きたいと思っていました。



気になる MONO KOTO SPOT 1



ベンチに生まれ変わったケヤキの木

玉川学園の春を彩る桜。枯れかけている姿を毎年見ていて心配になりました。桜を管理している「玉川学園地区まちづくり会」の木村彰男さんに話を聞きました。

桜の枯れは昭和60年ごろから問題になっていました。少しでも長生きできるように、玉川大学の先生とも連携してきました。駅前のソメイヨシノは60%が衰退しています。まちは桜は道路整備前に植えられた桜がほとんどで、道路も住宅も関係なく植えられています。ただ新しく植え替える予定は今の

ところはありませぬ。市に掛け合っているのですが、自費で、と言われてしまいます。伐採する資金と新しく植える資金が必要で、我々では到底払える額ではありません。提案を形にするためには、発言力や権限、資金力が必要だと考え、「まちづくりの会」は6月からNPO法人になりました。
この会は継続しやすいように、あえてその場限りの集まりとし、ゆるやかな多様性を持たせました。今後は提案を形にできる団体にしていきたいです。桜は品種改良などで大きくならない桜、育てやすい桜もあるそうで、そのような桜を植えていきたいです。景観も意識していかなければなりません。また、これから伐採する桜などは、単に捨てるのではなく何か形にして残したいです。2017年に伐採された駅前のケヤキも、コミュニティセンターでベンチに加工されています。桜はやわらかい木なので彫刻や置物になったらしいです。



気になる MONO KOTO SPOT 2

利用時間は9-21時で利用料金は3部制4時間1500円、それを超えると2500円。問い合わせは090-1611-2911 木村真理子さん。玉川学園地区まちづくりの会の活動はfacebookから見ることができます。

玉川学園の空き家を活用する新たな計画が動き出しました。「まちの縁側 一丁目の加賀美さんち」(玉川学園1丁目)の利用がこの夏から始まり、「まちづくりの会」の有志によって空き家を活用した交流の場になりつつあります。地域資源活性化プロジェクトの一環です。「加賀美さんち」は築約50年。昭和感あふれる外観です。室内はこの夏、まちのボランティアの手で掃除やペンキ塗りが行われ、すっかりきれいになりました。また、玉川大学からも不要になった机や椅子が寄付されました。すでに、高齢者介護支援施設「桜実会」で月曜と火曜の利用が決まっているほか、地域の交流会やカフェ、ミニコンサートや上映会、ワークショップなどが計画されているそうです。

玉川学園はSDGsなまち

オンライン開催となった玉川大学の2021年「コスモス祭」の共通コンセプトはSDGs。「本棚」での貸し借り、桜の再生、空き家の活用——お読みいただければ玉川学園もSDGsなまちだとわかります。空き家を拠点に学生がまちを元気にする活動もやってみたいです。(玉川大学教育学部教授 中西茂)

2021~ゼミ生の声

- ◎「きんじよの本棚」をまわって「近所のために何かしよう」「近所の人に喜んでもらいたい」という地域の方の温かさが身に染みました。(長倉)
- ◎普段歩くのは駅から大学までの道だけですが、空き家の活用取材を通して、玉川学園の地域性を感じることができました。機会があれば多くの学生にまちを探索してもらいたいです。(土井)
- ◎「きんじよの本棚」など、今まで知らなかったことを知ることができて、地域に興味が芽生えました。これからはまちを歩き、近くのお店にも入ってみようかなと思っています。(平山)
- ◎幼い頃から通ってきたまちの、年々枯れていく桜が気になっています。変わりつつある玉川学園をこれからも見守っていきたいです。地域の方から話が聞けてよかったです。(岡本)
- ◎ゼミ活動の一環で始まった玉川つばめ通信の制作でしたが、いつのまにか自分ごととして玉川学園の魅力について考えていました。どのようにしたらまちの魅力が伝わるかを考えて制作でき、貴重な経験でした。(後藤)
- ◎活動を通してまちの歴史や取り組みを知りました。取材を受けてくださった方々、町歩きの途中、親切に道を教えてくださった方々、本当にありがとうございました。(濱)
- ◎まちについて知らないことがたくさんありました。取材をしたお店だけでなくゼミの仲間と訪れたお店など、玉川学園にはたくさんの魅力が詰まっていると感じました。(伊藤)